

平成28年度

# 親子広島バスツアー

～平和・非核学習の旅～

## 感想文集

平成28年(2016年)8月5日～6日



原水爆禁止西宮市協議会  
西 宮 市

# も く じ

感想文集発行にあたって			.....	1
被爆 71 周年広島平和記念式典に参列して	西宮市原爆被害者の会	水野 喬司	.....	2
わすれられないせんそう		池田 早来	.....	4
初めての広島訪問		池田 敦	.....	4
原爆の恐ろしさ		岡部 千紘	.....	5
親子広島バスツアーに参加して		岡部 順子	.....	5
親子広島バスツアーにさん加して		小河 咲楽	.....	6
親子広島バスツアーに参加して		小河 理恵	.....	6
71 年前広島で起きたこと		川村 千姫	.....	7
親子広島バスツアーに参加して		川村 裕子	.....	7
原爆を忘れない		久保 楓乃	.....	9
親子広島バスツアーに参加して		久保 知子	.....	9
親子広島バスツアー		熊野 結萌	.....	10
忘れられない旅行		熊野 美幸	.....	10
親子広島バスツアーに参加して		志水 和日	.....	11
親子広島バスツアーに参加して		志水 千恵美	.....	11
命の大切さ		高内 新太	.....	12
広島への思い		高内 都	.....	12
Hiroshima		高浪 瑠里	.....	13
広島		玉置 凧彩	.....	14
親子広島バスツアー 平和・非核学習の旅		玉置 真佐美	.....	14
二度目の広島		塚元 麻衣	.....	14
広島		塚元 翔生	.....	15
親子バスツアーに参加して		塚元 佐登美	.....	15
広島原爆について		近森 利都	.....	16
広島原爆について		津吹 達也	.....	17
このツアーに参加して		富原 美祈	.....	18
広島バスツアー		富原 利桜	.....	18
親子広島バスツアーに参加して		富原 久美子	.....	18
親子広島バスツアー		長尾 眞滉	.....	19
親子広島バスツアー		長尾 日佐	.....	19
朗読会に参加して		宮田 優月	.....	20
ひばく体験記ろう読会を聞いて		宮田 月	.....	20
親子広島バスツアーに参加して		宮田 優花	.....	20
広島ツアー 感想		山口 真成	.....	22
平和を祈り続ける広島市のチカラ		山口 孝行	.....	22
親子広島バスツアーに参加して		山崎 菜子	.....	23
親子バスツアーに参加して		山崎 恵	.....	23
親子広島バスツアーに参加して		脇田 大輝	.....	24
広島バスツアーで		脇田 陽菜	.....	24
親子広島バスツアーに参加して		脇田 ひとみ	.....	25
バスツアーの参加		渡邊 聡太	.....	26
親子広島バスツアーに参加して		渡邊 佳代	.....	26

表紙絵 / 第 30 回 子どもたちの平和の絵コンクール 特選 (広島平和文化センター理事長賞)  
 広島市立三篠小学校 4 年 脇田 友加さんの作品  
 (広島平和記念資料館提供)

挿し絵 / 池内 正義さん

## 感想文集発行にあたって

本市は昭和 58 年 12 月 10 日に「平和非核都市宣言」を行い、平和を愛する社会をはぐくみ、築くことを誓いました。また平成 22 年には、平和首長会議に加盟し、国内外の都市と連携して核兵器のない平和な世界の実現への取り組みを進めているところです。「親子広島バスツアー」は、平和の大切さについて親子で考えていただく機会として、原水爆禁止西宮市協議会と市が、昭和 63 年より毎年実施しており、今年で 29 回目を迎えました。

「親子広島バスツアー」では、原爆ドームや広島平和記念資料館の見学、平和記念式典への参列などを通して、改めて戦争の悲惨さ、平和の大切さを考えていただけたのではないのでしょうか。

戦後 71 年が経過し、戦争を体験された方が高齢になられている現在、次世代へ平和を継承していくために、過去を学び、知る努力をしていくことが必要です。

「親子広島バスツアー」に参加された皆さんには、この 2 日間で得た経験や思いを多くの方に伝えていただき、核兵器の廃絶、恒久平和の実現に向けて、歩んでいただけることを切に願います。

### 平和非核都市宣言

青い空、緑の大地、そして、おだやかな暮らしは、  
わたくしたち西宮市民のみならず、  
平和を愛するすべての人の願いです。  
そんな平和への願いとはうらはらに、  
世界はおろかにも人類を何十回も滅ぼすほどの  
核兵器を蓄積しました。  
核戦争に未来はありません。  
恐ろしい核兵器をつくってはならないし、  
持ってもいけないし、持ち込ませてもなりません。  
わたくしたちは、  
世界中に核兵器の廃絶を強く訴えるとともに、  
平和を愛する社会をはぐくみ、築くことを誓い、  
平和非核都市をここに宣言します。

昭和 58 年（1983 年）12 月 10 日

西 宮 市

### 平和非核都市マーク



平和非核都市 西宮

宣言を記念して昭和 59 年（1984 年）4 月に一般公募し、7 月に「平和非核都市マーク」を制定しました。地球を二羽のハトで包み込み、恒久平和への願いを表現しています。

## 被爆 71 周年広島平和記念式典に参列して

西宮市原爆被害者の会 水野 喬司

今年は、広島、長崎に世界初の原子爆弾が投下されてから 71 年目の夏を迎えることになりました。

平成 28 年度西宮市・原水爆禁止西宮市協議会主催の親子広島バスツアー（平和・非核学習の旅）が開催されるにあたって、多くの参加申込があり、抽選により 42 名の方が選ばれました。

8 月 5 日、8 時 30 分に、市の人権平和推進課 2 名と我々の会からは私が参加することになり、全員が市役所前に集合し、「平和非核都市宣言」碑前で出発式の後、記念写真を撮り、多くの市役所の方々の見送りを受け、1 台のバスで広島に向かって出発しました。途中、龍野西 SA と福山 SA で休憩と食事を取り、午後 2 時 30 分に広島平和記念公園に到着し、酷暑の中、全員下車しました。

西宮の皆様から作って頂いた千羽鶴を各人手分けして「原爆の子の像」の奉納ケースに持参し、佐々木禎子さんの「原爆の子の像」前で記念写真を撮り、元安川を渡り、世界遺産でもある「原爆ドーム」を眺めながら、ドーム前で二度目の記念写真を撮り、原爆ドームから 200 メートル離れた実際に原爆を投下された島外科病院を見学し、平和記念公園に戻り、平和記念資料館に入館しました。

入館するにあたり、例年であれば、直ぐに団体でも資料館に入館できるのに、今年は、特に、オバマ大統領が本年 5 月 27 日に広島に訪問し、原爆慰霊塔に献花し、千羽鶴の佐々木禎子さんの話を聞き、4 羽の千羽鶴を折り、資料館に展示されているのが報道された為に、多くの人が関心をもたれたのか入館者が大勢集まり、暫くは、炎天下の館外で待たされました。

又、入館したものの資料館の中の展示物の前でも大勢の人で、前にも進むことができない状態で原爆の展示資料に興味を持ちながら熱心に勉強して頂いている姿を見るだけで嬉しく思いました。初めて資料館に入られた方は、本物の展示物や資料等を見られ、原子爆弾 1 発の恐ろしさを知って、さぞ、驚かれたのではないのでしょうか。

見学後、バスで宿泊先の広島ダイヤモンドホテルに入り、夕食後、地元のボランティア 3 名による「被爆体験記朗読会」が開かれ「広島原爆被害」の DVD と体験記の朗読があり、原爆詩を各人選択して読み上げられました。原爆投下された広島での悲壮な現状と生の体験談の声を聴かれ、いかに平和が大切であるかを知って頂き、大いに原爆の恐ろしさの勉強が出来たのではないかと思います。

8 月 6 日、5 時起床、6 時に朝食を摂り、ホテルを 6 時 45 分に出発し、会場近くで下車し、全員早足で会場に向かいました。式場での座席確保後、会場近くで配られていたボーイスカウトから頂いた花束を全員で式典が始まる前に献花台に供えました。

今年の平和記念式典会場には、5 万人以上の参列者が参加されており、会場内外は、人で一杯で、立見の人でも大勢いました。海外からも多くの参列者があり、国連と EU 代表部が特別参列されていました。核保有五大国では、米英仏露の代表の出席はありましたが、残念ながら本年も中国からは欠席でした。

8 時丁度に式典が始まり、原爆死没者名簿奉納があり、式辞の後、代表者の献花があり、8 時 15 分には、参列者の 1 分間の黙とうがあり、松井一實広島市長から平和宣言の中の、その最後の言葉として、「私たちは、本日、思いを新たに、原爆犠牲者の御霊に心からの哀悼の誠を捧げ、被爆地長崎と手を携え、世界の人々と共に、核兵器廃絶と世界恒久平和の実現に向けて力を尽くすことを誓います。」と呼びかけがありました。

「平和のシンボル」である多くの鳩が放たれた後、広島小学校 6 年生 2 人から「平和への誓い」があり、その言葉の中で「私たちには、被爆者から託された声を伝える責任があるのです。一人一人が、自分の言葉で、丁寧に、戦争を知らない人へ 次の世代へ 世界の人々へ 命の尊さを 平和への願いを 私たちが語り伝えていきます。」と可愛らしく、心強い言葉で締めくくられました。参列者の挨拶として内閣総理大臣、安倍晋三首相からと、国連事務総長パン・ギムン氏からの言葉がありました。「ひろ

しま平和の歌」を全員で歌い、9時前に、式典も閉式となりました。

午後1時の出発まで自由行動となり、希望で有志の方が残られ、平和公園内の記念碑の説明と案内の為、我々と共に行動をして頂きました。まず初めに、資料館横の「被爆アオギリ」を見学し、昨夜、語り部として来て頂いた3人が所属しておられる原爆死没者追悼平和祈念館を見学し、その後、終戦直後に大量の医薬品や食料をいち早く広島市民に提供して頂いた「マルセル・ジュノー博士碑」に行き、元安川にかかっている「イサム・ノグチ」の欄干がある平和大橋を横目で見ながら道路を渡り、学徒動員で541名が亡くなった「広島市立高女原爆碑」を訪れ、再び、平和公園に戻り「嵐の中の母子像」、「祈りの泉」を見ながら日本初のノーベル賞を受賞された湯川秀樹博士の短歌が描かれている「平和の像」を見ながら多くの千羽鶴に囲まれている「原爆犠牲国民学校教師と子どもの碑」の前を通り、本川沿いの「広島市商・造船工業学校慰霊碑」に行き、碑の後ろに刻まれた生徒の名前を皆で参拝しながら、手を合わせて頂きました。次に公園内にある「広島二中碑」「義勇隊の碑」「韓国人原爆犠牲者碑」を巡り「平和の鐘」を代表者が鳴らし、「原爆供養塔」、「平和の時計塔」、「原爆の子の像」を通り、ベストポジションの原爆ドームをバックに各自記念写真を写しました。相生橋から市電に乗り八丁堀で下車し、福屋百貨店で、広島のお土産を買い、近くの広島名所の「お好み焼き村」に行き、各自、好きな店に入り昼食を摂りました。

午後1時に広島を出発し、6時20分に、全員無事に市役所前に到着しました。

2日間の短いツアーでしたが、その間、原爆に関して色々勉強されたと思いますが、未だ世界には1万4千発の地球を破壊でき、人類を破滅させる核兵器が保持されており、今後、日本を含め世界平和を維持していく為にも、この地球上から完全に核廃絶をしなければなりません。

## 追記

8月6日の夜7時から鳴尾新川に於いて、本年度の平和灯ろう流しが開催されることになっておりましたので、皆様をお見送りした後、どうにか開始寸前に現地に到着致しました。

西宮市で始められた平和灯ろう流しの発端は、本年4月4日に残念ながらご逝去されました我々の会の相談役の壺井進様が立案され、1986年（昭和61年）8月2日に第1回目の灯ろう流しを武庫川の河川敷で始められました。

灯ろう流しの主旨は、原爆や戦争で亡くなられた方々の鎮魂をお祈りすると共に世界の恒久平和を願う意味が含まれております。この主旨を壺井様は、世界をまわって普及され、現在でも各国で、継続されている国々が多くあります。

第2回目からは、現在の鳴尾新川で行われておりましたが、その後、途中から西宮市の馬場順三市長も我々の行事に賛同され、協力されることになり、現在、共同主催者として実施しており、今年で31年目を迎え伝統ある行事の一つになっております。

開式に当たり、掛田副市長からのご挨拶があり、次に、当会の代表として、大勢参列して頂きました皆様に、広島に原爆を投下された日でもありましたので、式典に参列したこととお礼の言葉を述べさせて頂きました。特別参列者としては、県議会議員様、市議会議員様、市の局長はじめ関係者様、各会の代表者様方が、ご多忙中にも関わらず大勢参列して頂きましたことを厚く御礼申し上げます。

その後、我々の会員が作りました光をともした灯ろうを全員で手を携えて新川に流して頂きました。川に浮かべてから30分余りで無事、今年の灯ろう流しの式典は、終了いたしました。

## わすれられないせんそう

池田 早来

私は一度も広島に行ったことがありませんでした。

夜に、話を聞いていたらどれだけの人びとがかなしい思い、くるしい思いをもってせんそうでたたかった思いが伝わりました。

初めてげんぱくドームを見にいったとき、こんなにもひがいを受けているのだと感ぜました。

8月6日きねん式てんがおこなわれたとき、かぞえきれないぐらいの人がいました。自分の家ぞく、自分の友だちをなくした方がかわいそうでしかたありませんでした。

このバスツアーで知ったこと、見たこと、聞いたことをいっしょに行けなかった家ぞくや友だちに話したいと思いました。

## 初めての広島訪問

池田 敦

「これは悲惨だ」

広島平和資料館へ訪問し、その後、被爆体験記朗読会を拝聴し、私の心の思いがどんどん変わっていききました。

この度のバスツアーで初めて広島を訪問しました。学校の授業、新聞、テレビ等で原爆の事は理解していたつもりでしたが根底から覆されました。

広島へ着いてからの学生達による、核廃絶の署名活動、ボーイスカウト達の記念式典での献花・案内配布など子供から大人までの核廃絶に対する思いが伝わってきました。

2日間という短い時間ではありましたが、私と娘にとっては貴重な2日間となりました。

オバマ大統領をはじめ、世界各国の首脳が核廃絶への道を進んでいくことを願っております。



平和非核都市宣言碑の前で出発式

## 原爆の恐ろしさ

岡部 千紘

核兵器は絶対にこの世から消えてほしいと思いました。今、この平和な世界にあってはならないからです。被爆して家族を失った人は今も悲しんでいると思います。多数の死者を出すような物は少しでも早くなくなってほしいです。原爆でたくさんの人が死んでしまったので前よりもとても、平和を大切に思えるようになりました。被爆した人の服やものを見ると原爆のおそろしさがとても伝わってきたので原爆などはもう絶対に作ったり使ったりしてはいけないと思いました。平和の大切さを知れて良かったです。わたしは原爆が落とされた年にも広島にも住んでいなかったし、今はとても平和なのでご飯も自由に食べれない、病院も行けなかった世界はありませんでした。

## 親子広島バスツアーに参加して

岡部 順子

昨年、つけっぱなしにしていたテレビから流れていた広島の平和記念式典。それを見ていた娘に原爆のことを聞かれ、インターネットの画像を見ながら私が知っていることを話しました。私自身、広島を訪れたことがなく、一度は絶対に娘と一緒にいきたいと思っていました。そして娘が4年生になった今年、このようなバスツアーが開催されていることを知り応募させていただきました。

今では平和公園となっている場所がかつては有数の繁華街であったこと。平和学習で歩き回るその足元に、いまだに大勢の方々の遺骨が埋まっていること。一般市民のみならず、学徒動員されていた若い学生が多数亡くなったこと…。広島を訪ね、話を聞かなければ知らないままになってしまうことばかりです。

娘の様子を見ていると、まだ少し早かったかなと思うこともありましたが、帰宅後、原爆に関する本を数冊ねだられて購入しました。娘の心の中に何か芽生えたものがあつたのでしょうか。その芽を今後も育てていってほしいと思います。

原爆資料館の展示物も慰霊碑も、何度見ても年齢を重ね立場が変われば感じるものも変わってくるはずです。ぜひまた、広島に行きたいと思います。

最後になりましたが、お世話をしてくださった皆様、貴重な体験をさせていただき、ありがとうございました。



## 親子広島バスツアーにさん加して

小河 咲楽

わたしが、このバスツアーにさん加しようと思ったのは、アメリカ大とうりょうのオバマさんがおったおりづるを見たかったからです。2年前もお母さんとお姉ちゃんと、旅行で行きましたが、その時よりもすごく人が多かったです。

資料館で見た、写真や人形は思い出すだけで怖くなります。原ばくのおそろしさが、とてもよく分かりました。

せんそうのない平和な世界が訪れますように…。

## 親子広島バスツアーに参加して

小河 理恵

私は広島県で育ちました。

毎年8月6日は登校日で、原爆の投下された午前8時15分には、全校生徒で黙禱を捧げました。その日の平和学習の中での被爆者の方々のお話や映画は、子供心に恐ろしく悲しく、毎年嫌で嫌でたまらなかつたのを覚えています。

小学校6年生の時、学校を休んで、姉と初めて平和記念式典に参列しました。その日も雲一つない晴天で暑い日でした。式典は厳かに行われ、私は公園の端のベンチで黙禱を捧げました。言葉で言い表すのは難しいのですが、その時感じた気持ちを娘にも感じて欲しいと思い、今回ツアーに参加しました。

参加するに当たって、原爆の子の像に奉納する千羽鶴を親子で折りました。娘たちと折り鶴を折りながら、5月27日にアメリカ大統領のオバマ氏が広島を訪れた話もしました。

現職のアメリカ大統領が広島を訪問された事は、歴史的な出来事だと思います。しかし、原爆は落ちたのではなく落とされたのであって、資料館や体験記朗読会で見たたり聞いたりの様に、想像を絶する痛みや苦しみを味わわれた方々がいるという事、その方々の努力によって今の日常があり平和に過ごせているという事、そして、それが続いているありがたさや喜びも娘達と話し、伝えていきたいと思いません。

普段の生活の中で、今までなかなか平和について話す機会を持てなかつたのですが、このツアーは、とても良いきっかけになりました。参加させていただいて、本当にありがとうございました。



平和記念式典での様子



## 71 年前広島で起きたこと

川村 千姫

わたしは、親子広島バスツアーに初めて参加しました。

わたしは今回、初めて、広島に行くので、少し、不安なところもあったけど、1日目はいろいろなことが勉強できたなと思いました。

原爆ドームは、今年で101さいだと聞いたので、すごくびっくりしました。それに、71年前の、爆弾が落とされたときから、この71年という長い長いこと、同じ場所に立っているのはすごいことだと思いました。それに、原爆ドームの下には、お墓に入れなかった人たちも、原爆ドームの下で、今も、ねむり続けていると聞いて、すごく胸が苦しくなりました。

資料館では、人が多かったので、良く見えなかったけど、原子爆弾の恐ろしさが、よく分かりました。

あの日、1945年8月6日8時15分、広島と長崎で、何が起こったのか。その一瞬で何人もの人々の命が、うばわれたのか…。その一つ一つの時間を忘れないようにしなければいけないと思いました。

この2日間で、いろいろなことを学べたんじゃないかなと思います。この世には、せんそうなど、あってはいけない物がたくさんあるんだなと思いました。

この2日で知ったこと学んだことを、ほかの、私と、同じせんそうをしらない人たちに71年前、広島と長崎で、何が起きたのかを、伝えていけたらいいなと思います。

もう、2度とこんな悲しいことが、起こらなければいいなと、心から強く感じます。

## 親子広島バスツアーに参加して

川村 裕子

今回、初めてバスツアーに参加をして、初めて広島へ来ることができました。

子供の頃、社会の授業で戦争で広島、長崎の原爆死者の数や、原子爆弾の恐ろしさを、習い知っていたつもりでしたが、実際、広島へ訪れ、知らなかった、忘れていたことが、たくさんありました。爆心地が原爆ドームでは無いということ、なぜ、折りづるを奉納するのか…改めて勉強ができました。

資料館へ行った時に、写真・展示物を見た時は、胸が苦しく感じたのを思い出しました。自分の子供と同じくらいの子が原爆により、皮膚がただれ、暑さをしのぐ為、水を求め歩く人形の姿が現実だったんだと、ショックでした。

又、「はだしのゲン」で見た川を見た時は、この川の水を求め人々が入っていた姿を想像した時、自分が子供の頃に習った授業は現実で、今の平和な日本があるのも、あたりまえでは無い、ということ忘れてはいけないと思いました。

この、広島ツアーは、娘が参加したいと言ってくれました。どんな気持ちで希望したのかは、わかりませんが、このツアーで、戦争を知らない私と娘が、たくさん勉強をして帰ることができたのは、とても良い経験だと思います。娘は、これから又、授業で習うと思いますが、その時には、しっかりと皆に伝えてくれたらな、と思います。

私にできることは、今回このツアーに参加していない長男（中学2年生）に、今、自分達が、平和に生きていられること、あたり前に食事ができ水が飲めること、親・友達と楽しく笑い、過ごすことができているということに感謝して、改めて、広島・長崎の事を勉強して、伝えていくことだと思いました。

社会に、望むことは、ただ一つ。二度と同じように、戦争は起こしてほしくない。原爆で苦しむ我が子の姿、食べたい物も食べることもできないで、死んでいく我が子の姿は、見たくない。71年前に同じことを思い、亡くなっていたお母さん、お父さんのためにも、繰り返してはいけないと思います。

広島へは、なかなか行くことはできないので、今回のバスツアーでは、大変、貴重な体験をさせていただきありがとうございました。



平和の願いを込めて折った折り鶴を奉納

## 原爆を忘れない

久保 楓乃

私は、親子広島バスツアーに参加して、たくさんの貴重な経験をさせていただきました。驚くことや心が痛むようなものも、たくさんありました。

特に印象に残っているのは、朗読会です。被爆者の方々の詩は、言葉のひとつひとつに「魂」が込められているようで、私の心に強く響きわたりました。原爆によって傷だらけでボロボロになった人々の表現や町の光景は、見て体験した人にしか分からないものです。それを聞きながら、もし自分がその立場だったら、どうなっていたんだろう。死がこんなにも身近にあるなんて…。とても恐ろしいことだと思いました。部屋の中は、朗読の声とすすり泣く声でいっぱいでした。

これからもずっと、被爆者やその遺族の方の心の傷は、なくなることはないかもしれません。でも目を背けてはいけません。私達は忘れてはいけません。もう二度と同じことを起こさないために、少しでも多くの方がこの事実を知り、平和な世界へ近づくことを願っています。

## 親子広島バスツアーに参加して

久保 知子

この親子広島バスツアーに参加出来たら、娘にとっても私にとっても、とてもいい経験になるだろうと思い、ツアーに参加させて頂きました。

初めての広島は、見学したもの全てが衝撃的でした。綺麗な平和記念公園の中に戦争の恐ろしさを残す原爆ドーム。戦争や原爆の恐ろしさを伝える資料館。戦争が終って10年が経過してから原爆症を発症し苦しんだ佐々木禎子さんのお話。当時の写真や映像など見るもの聞くもの全てが私の心を動かしました。

爆心地が原爆ドームではなく、島外科病院上空600mだったことを教えて頂いたことはとても勉強になりました。ありがとうございます。

1日目の見学を終え、夕食後の朗読会では被爆体験記、原爆詩を朗読して頂き、それを聴いていた時に自然と涙がこぼれ落ち、涙が止まりませんでした。

2日目の平和記念式典への参列、献花、黙祷は、とてもいい経験になりました。このツアーに参加しなければ経験出来なかったことだと思います。

2日間のツアーでしたが、沢山の事を学ばせて頂きました。戦争や原爆の恐ろしさ、原爆症や差別に苦しむ沢山の方がいたこと、そして、それを忘れてはいけないと人から人へと語り継ぐことの大切さなど、とても勉強になりました。今でも戦争やテロで苦しんでいる人が沢山います。戦争やテロが無くなる平和な世界になることを願って、今回のツアーで学び経験したことを微力ながら伝えていきたいと思っています。

引率して頂いた西宮市職員の方、原爆被害者の会の方、大変お世話になりました。そして、貴重な経験をさせて頂き心から感謝致します。2日間、本当にありがとうございました。

## 親子広島バスツアー

熊野 結萌

わたしは今年の6月に修学旅行で初めて平和学習で広島に行きました。修学旅行では、平和記念資料館をまわったり、原爆ドームや原爆の子の像を見たり、平和公園では碑巡りをしたりしました。なので、平和学習で広島に行くのは2回目でした。だけど知ったことはたくさんあります。その中で、今、心の中に一番残っているのは「原子爆弾が落ちたのは、原爆ドームがあるところではなくて、島外科があるところ。」ということです。

心に残っている理由は、わたしが自分の中で原子爆弾が落ちたのは、原爆ドームがあったところだと思っていたからだと思います。だからわたしのように、本当の事を知らないのに、勝手に自分の中で思っていることがないように、戦争の本当の事を修学旅行で平和学習をしたと思っている人などみんなに伝えていきたいです。

## 忘れられない旅行

熊野 美幸

私は学生の頃、旅行で原爆ドーム、資料館へは一度だけ行った事がありますが、結婚し転勤で広島へ二度、計7年程住んでいたのに、その時は気になりながらも資料館へ行く事はなかったので、もう一度訪れてみたいと思っていました。

今回ツアーに参加し、沢山の事を教えてもらい、初めて知りびっくりした事もあります。

- ・資料館では展示してある被爆された方の学生服のサイズがとても小さい事に驚きました。
- ・爆心地がドームではなく、島外科である事は今回初めて知りました。
- ・セレモニーでは、子供代表6年生のスピーチがすばらしく感動しました。被爆者の平均年齢が80歳を超え、これから私達が戦争を知らない次の世代へ伝えていく事の大切さを改めて感じました。
- ・被爆体験記朗読会では、無題、佐藤智子さんの詩が忘れられません。「いもぼっかしたべさせてころしちゃったね」という、お母さんの気持ちを想像するだけで何度読み返しても涙があふれます。

そして2日目の自由行動の時間、私達は久しぶりに広島に住んでいた頃からの友達親子と再会し、幸せなひとときを過ごしました。

あっという間の2日間でしたが、平和について沢山の事を考えさせてもらいました。

今回このツアーは小6の娘と2人きりで初めての1泊旅行でしたが、一生忘れられない旅行になりました。2日間お世話になった皆様どうもありがとうございました。このツアーがこれからも続いていく事を願います。そして、今回対象年齢外で参加出来なかった息子ともいつか参加させて頂いたら、と思っています。

## 親子広島バスツアーに参加して

志水 和日

私は広島へ行くのは2回目でした。1日目の平和記念公園では、原爆ドームを見ました。遠くから見るとしっかりたっているように見えても近くに行くと今にもたおれそうで、骨組みが丸見えでした。平和記念資料館では、8時15分で止まった時計や、原爆でボロボロになった制服などがあり、中でも原爆のおそろしさを感じたのが全身の皮ふがめくれている人たちの人形を見た時でした。すごくいたかっただろうなあ…などと考えさせられました。

その日の夜、朗読会がありました。いろんな詩がある中で、一番心に残ったのが「げんしばくだん」という詩です。たった3行の短い詩でした。でも、その3行から戦争の怖さ、原爆のおそろしさを感じることができました。私はこのツアーに参加して改めて戦争はあってはいけない、してはいけないことだと強く思いました。

## 親子広島バスツアーに参加して

志水 千恵美

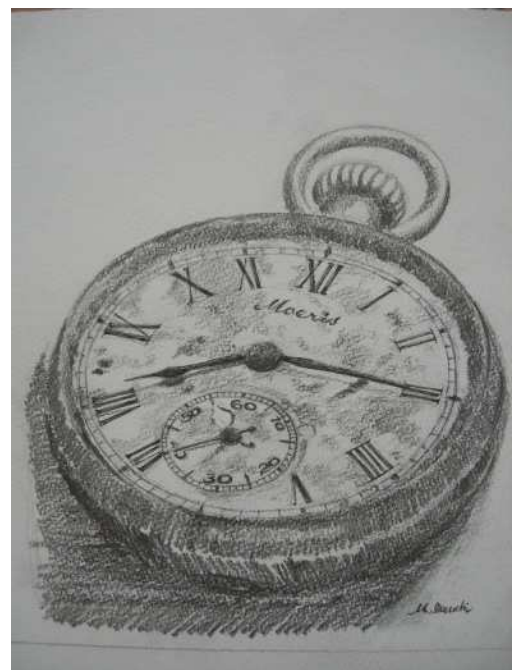
「緑が多くてきれいな街だな。」高速を下りて広島市の街地を走っている時に最初に感じたことです。8月6日に何が起こったのかはもちろん知っていましたが、この日に実際に現地に足を運ぶことに意義があると思い、小6の娘と参加しました。5月にオバマ大統領が広島を訪問されたことが影響しているのか、平和記念資料館は大変混雑していました。なので、ひとつひとつの展示物をじっくり見るということは出来ませんでした。原爆の威力がいかにもすさまじいものだったのかは、伺い知ることが出来ました。夜の出前朗読会では、ボランティアの方が原爆詩を朗読して下さいました。冊子を閉じて、文字を目で追わずに詩を聞くと、被爆者の方の言葉が直に頭に入ってくるようでした。静かな語り口の中には、原爆の恐ろしさと底知れぬ深い悲しみがありました。

翌日、平和記念式典に参加しました。朝からよく晴れて暑い1日でした。71年前の8月6日もこのように青空が広がっていたのでしょうか。8時15分、1分間の黙とうを捧げました。原爆の犠牲になられた方々のご冥福をただただ祈るばかりでした。

平和な時代を生きる私たちにできることは、過去にあった出来事を正確に知り、そこから得た教訓を未来へ生かすことだと思います。それは原爆死没者慰霊碑に刻まれていました。

「安らかに眠って下さい 過ちは繰返しませぬから」

今ある平和は当たり前にあるものではなく、たくさんの人々の犠牲と悲しみの上に成り立っているということを決して忘れてはいけないし、二度と同じ過ちを繰返さないためにも、核兵器の廃絶を訴え続けていかなければいけないと思いました。



## 命の大切さ

高内 新太

ぼくは広島へ行った事が一度もありませんでした。6年生になったら修学旅行で広島へ行くのですが、一度予習しておきたいと思って、この親子広島バスツアーに参加しました。それと2年生の時から「はだしのゲン」を読んでいて、原爆という物をもっと詳しく知りたいという事も1つの理由でした。

最初に原爆ドームを見学しました。爆心地からわずか160メートルだったため、旧広島県産業奨励館は大破してしまいました。本では見た事がありますが、実際に見るのは初めてで間近で見るとかなりショックをうけました。

次は平和記念資料館を見学しました。そこにはたく山の原爆の悲惨さを物語る遺品が並べてありました。黒こげになった弁当箱や焼けこげた女学生の服、原爆症で苦しんでいる人たちの写真…。当たり前だった暮らしがとつぜんできなくなったあの日…。たった1つの爆弾で罪も無いお年寄りや子供まで犠牲になったのです。絶対ゆるせない…核兵器は悪魔だ…本で見る何倍も悲惨な真実でした。

それから、被爆体験記朗読会です。これらを聞くと、自分だったらと思うとぞっとしました。朗読会の最後に、1つ原爆詩を朗読してみました。題名は「弟」です。ぼくには5つ年下の弟がいます。その弟が被爆したら…と考えて読みました。息が詰まって中々読めませんでした。

翌日、平和記念式典に参列しました。6年生、子ども代表の「平和への誓い」がありました。6年生でこんなに上手ではきはきしゃべっていてすごいなあと思いました。最後にバスで西宮に帰りました。

この2日間で「生きている喜び」や「命の大切さ」を知りました。この平和な世の中がずっと続きますように。

## 広島への思い

高内 都

「バスで広島に行ってみよう。」息子の誘いでバスツアーを知りました。修学旅行で行く予定ですが、今の年齢、親子で広島を体験することに意味があるのでは、と参加を希望しました。小学校に入ってから「はだしのゲン」を借りてきては物語に出てくる言葉を尋ねるようになりました。戦争を知らない私が返答に困るようになり、自身のためにも学び直したいと思いました。

私にとって2度目の広島。大人になってからでしたが、あまりの悲惨さにショックを受けた記憶があります。母になった自分がどのように感じ、息子は何を想うのか…。少し不安な気持ちが混じるツアーの始まりでした。平和公園を歩き、原爆ドームを見学しました。原爆の悲惨さを目の当たりにした息子も時々不安な表情をしながらも向き合っていました。そんな姿を見て「もう戦争が起こりませんように。」と切に願いました。

その日の夜の被爆体験記朗読会でボランティアの方から「平和公園は身元の分からない方が眠っている為この場所を公園にしなければならなかった。」とお聞きしました。平和公園周辺は本来人が集うお店や住宅だったのです。希望して公園になった訳ではない事が悲しかったです。これからは祈りを込めて歩きたいと強く感じました。

平和式典への参加もこの先忘れる事のない経験です。何度か心が苦しく重くなる瞬間もありましたが、この日を忘れず祈る事が大事なのだと思いました。

自由時間では「本川小学校」「舟入本町」を周り、ゲンを感じる事ができたようです。

後日、長崎の原爆の投下の日。息子は一緒に遊んでいた友人に今回の広島で教わった事を話して2人で手を合わせていたそうです。後で聞いてとても驚いたのですが、息子には自然な行為だったようです。私も今回の体験を家族や周りの方に伝えたいと思います。

このような機会に恵まれ感謝しています。お世話になった皆様、ありがとうございました。これからも多くの親子がこのツアーで貴重な体験ができることを願っています。



原爆ドーム

## Hiroshima

**高浪 瑠里**

私は広島バスツアーに参加して、多くの事を学びました。

展示してある写真などはひさんな光景で心が痛くなりました。その時見たものは当時の様子を物語ってくれました。

被爆者の方々の体験記を読み、「皮ふがたれ下がり...」「血しぶきがとび...」などの現実にはありえないことがたくさんあり原爆は、もう決してしてはいけないことだと思いました。戦争中、亡くなった方々、被爆した方々のことは忘れてはいけません。

「核兵器のない平和な世の中へ」

このスローガンを私たちが大人になった時にはもう、あたりまえになってほしいです。また、世界平和に向けて一人一人が努力し、国境をこえてもみんなが仲良しでいられる世界になってほしいです。

## 広島

玉置 凧彩

今まで学校の授業で何度も広島の話はやってきたけど、いまいち分からないことも沢山あったので今回学校の授業では学べないようなことも体験できたのでとてもいい経験でした。

時間があまり無かったので次行くきかいはあればもっとゆっくり見学等をしたいです。

### 親子広島バスツアー 平和・非核学習の旅

玉置 真佐美

私にとっては初めての広島。原爆の前日ということもあり沢山の人が平和公園、平和記念資料館を訪れていました。資料館の展示物を見て、テレビの映像で見るとはあっても実際に見ると、本当に原爆を投下されたんだなあと感じました。どれだけ痛く、どれだけ辛かったか、もちろん体験した者にしか分からないと思います。被爆された方が亡くなられていく中、いつまでもこの事は語り継いでいかなければいけないと感じました。

平和記念式典にも参列させていただき本当にありがとうございました。

### 二度目の広島

塚元 麻衣

私は今回で2回目の広島でした。1回目は6年生の修学旅行の時でした。その時は資料館に行き、原爆の恐ろしさを学びました。2回目の今回、1回目とは違い中学生としての見方ができました。

被害にあった人はどんな気持ちだっただろう？どれだけ苦しかっただろう？一人ひとり思いは違うけれど、きっと皆、戦争はしてはいけないと強く思ったと思います。

式典はなかなか家族では行かないので、こうやってツアーで行けるのは貴重な体験でした。71年前のあの日、ここでもたくさんの方が亡くなり、この地面にどれだけの方が倒れたんだろう？と思うと胸が苦しいです。

今こうして何気なく暮らしている私たちですが、それには71年間、市民の方々の復興に向けての努力と苦勞の積み重ねによってこの平和が築きあげられていると感じました。

今回のツアーで職員の方々に色々案内してもらい、修学旅行では得られなかった事がたくさんありました。良い経験になりました。ありがとうございました。



## 広島

塚元 翔生

ぼくは、はじめて広島に行きました。最初に行ったしりょう館で見た人形は、原ばくを落とされて皮ふがとけていたので、ものすごくこわかったです。

リトルボーイは3mしかないのに、14万人の命をうばったので、オバマ大とうりょうが核兵器をもたない勇気と言ったようにせんそうのない世界になってほしいと思いました。

平和式典では、色々な国のえらい方が来ていたので、おどろきました。そして8時15分にもくとうをしたら悲しい気持ちになりました。

つれていってくれたしょく員のの方々ありがとうございました。勉強になりました。

## 親子バスツアーに参加して

塚元 佐登美

私が今回のバスツアーに応募したきっかけは、私自身が戦争を身近に感じていなかった事と、子ども達も理解出来る年齢に成長したという理由からでした。

中2の娘は修学旅行で訪問しており、「また悲しいところへ行くのか？」と反対していました。しかし、親子で勉強する良い機会なので、参加させて頂きました。

初めて訪れた広島は西宮より暑いと思いましたが、平和記念公園はとても広く、公園内も周辺の道路も管理が行き届いており、まるで都市の中にある穏やかな公園の1つでした。

夏のキラキラした日差しが公園内を明るく照らしており、71年前の今日もそれぞれの生活を営んでいたはずで、その後、あんな惨事が起きた所とは思えませんでした。だからこそ市民の方々の悲しみと復興の努力が伝わりました。

平和記念館は小4の息子に耐えられるかと心配しましたが、彼はメモを取り、向き合いました。一部改修中と混雑の為、全てをじっくり見学する事は不可能でしたが、三輪車やツメと皮膚の展示物には身近な物だけに「こんなにも？」と言葉を失っていた様子でした。私達の想像は本当に想像で、このような展示物を見たり、被爆者の方々の涙で当時は酷く恐ろしい光景が広がっていたんだ、と分かりました。

思ったより小さかった「リトルボーイ」。私達が宿泊した所まで、その威力があったと知り、顔が歪みました。5月に訪問されたオバマ大統領の「核兵器を持たない勇気」という言葉が広島に来てやっと心に響きました。

単なる家族旅行では平和式典の日に広島を訪れようとは考えないかも知れません。テレビ、新聞で式典の様子を見ても深く考えなかったかも知れません。しかし、参列して各国のリーダーを見たり、厳粛な雰囲気味わえた事は大変貴重な経験でした。

現地で撮影した子ども達の表情には、笑顔もピースサインもありません。娘は2年前の訪問より違った目線で広島を見つめる事が出来たでしょう。そして息子は2年後に訪れる広島を次はどのように感じるのか。またその時に今回のツアーを思い出しながら話せたらいいなと思っています。

このツアーに参加させて頂き本当に良かったです。ありがとうございました。

## 広島原爆について

近森 利都

僕が思ったことは、原子爆弾【リトルボーイ】投下の恐ろしさです。原子爆弾の恐ろしさは4つあります。

- 1つ目 風速が440mということ（50mで木がボキッと折れる）
- 2つ目 1秒で1km以上ひろがる（440mもの風が吹いてくる）
- 3つ目 地熱1,500度（100度で水が沸騰）
- 4つ目が一番恐ろしいのです。

4つ目 放射線（恐ろしさは壁や天井、ヒトの皮膚を突き抜けて細胞の中のものを切り裂きます。その切り裂かれたものは元に戻ろうとしますが、別のものとくっついてしまい、細胞が突然変異を起こして人体に影響をもたらします。その影響は、髪が抜ける、胃腸の皮膚がはがれ、胃腸の中に血が回る。そしてうんちに血が混ざったりする。最悪の場合、がんになります。それに細胞の突然変異で人体に影響をもたらすのはいつになるかわからないので、被爆者の方々は今でも恐れていると思います。）

このように原子爆弾投下の恐ろしさは怖いのです。これはアメリカ軍の兵隊の間違いでこのようになってしまいました。大統領は少なくとも軍に落とすようにとお願いしたいです。しかし兵隊は広島市の中心部に落としてしまい、このようなことになったのです。手違いでこのようなことになったということは、原子爆弾【リトルボーイ】はすごい威力です。

朗読会で一番心に残ったのは原子爆弾の詩です。そのわけは、人はお化けになるということが書いてあるからです。人がお化けになるということは、死んだということ。死んだわけは原子爆弾【リトルボーイ】のせい。1つの言葉にまとめている。そこを強調しているのではと読んでみて感じました。当時は青空があり、セミの鳴き声や、鳥などがそこら中に飛んで...原子爆弾の詩に書いてある通り、昼が夜になり、セミの鳴き声や、鳥が消え、あたり一面黒色に包まれます。こう表せるのも原爆当時のことを知ったからです。

平和記念公園について。公園になってよかったねと言われても確かにうれしくはありません。その下には今でも被爆者の遺骨が眠っているのです。



被爆体験記朗読会

## 広島原爆について

津吹 達也

戦後 71 年を迎えたヒロシマにとって 2016 年という年は 1 つの転機を迎えた年として記憶されることになるであろう。その象徴的な出来事とは、いわずもがなこの 5 月の米国・オバマ大統領の広島訪問である。彼の 20 分強のスピーチは、世界に誇る名演説として後世に称えられることだろう。

今日現在、世界の平和は混とんとした状況を強め、世界中でのテロや内戦のニュースが日々繰り返されている。

“Every great religion promises a pathway to love and peace and righteousness. And yet no religion has been spared from believers who have claimed their faith has a license to kill.”(すべての偉大な宗教は愛や平和、正義への道を約束している。しかし、どの宗教も信条のもとで殺人が許されると主張する信者を抱えてきた。)

異文化・異宗教を感じにくい島国である日本という国においては、なぜ宗教で戦争が起きるのかは理解しがたい命題であるかも知れない。宗教とは本来は多様な思想や民族が、そのアイデンティティを形成するための 1 つの手段であると理解している。しかしこれが政治と結びつくことによる手段となったときに、悲劇は生まれ続けている。

今年ヒロシマを訪問し、まず感じたのは圧倒的な訪問者の多さである。聴くところによると例年に比較し、1 万人増の 5 万人もの訪問客が 8 月 6 日の式典に参加したという。オバマが広島から世界に伝えたメッセージが日本中および世界中に届いた結果ではなかろうか。

” Among those nations like my own that hold nuclear stockpiles, we must have the courage to escape the logic of fear and pursue a world without them. (我が米国をはじめとする核保有国は、恐怖の理論から逃れ核兵器のない世界を目指す勇気を持たなければならない)。

混沌としたこれからの時代の中で、残すべきもの、知っておくべきものがあるとするならば、ヒロシマはその 1 つであろう。戦争を知らない世代である我々が、その悲劇を親から子へと伝える機会として、また 1 人の日本人として学ぶ機会として、この親子広島ツアーは貴重な体験であると実感している。



## このツアーに参加して

富原 美祈

このツアーに参加するまで、私は、戦争のことをあまり深く考えたことがありませんでした。「どうせ自分には関係ない。」とか、「そんなの70年以上も前の話でしょ。」とか、しんげんに戦争や原爆と向き合おうとはしませんでした。しかし、ツアーに参加して、今までのそんな考えはなくなりました。なぜなら、今でも原爆のこうい症が残っていて、苦しんでいる人がいることを知ったからです。戦争や原爆のおそろしさや悲惨さを知ったからです。被爆者の方が減ってきている今、戦争がどんなにおそろしいものか、今日本が平和なのが多めに嬉しく幸せなことか、今度は私達が伝えていかなければならないのだと、強く思いました。

## 広島バスツアー

富原 利桜

わたしは、広島に行くのが少しこわかったです。なぜなら、行ったこともない、広島に行くからです。それに見たことのない、物をたくさん見たり、原爆くドームや、戦争や原爆くで、たくさん命がうばわれてしまったということ、このツアーに参加して分かりました。また広島に行くことになったら、前よりもっといっぱい知りたいです。

## 親子広島バスツアーに参加して

富原 久美子

今回参加させていただいたのは、子供達に戦争や原爆について知って欲しいというよりも、私自身が知りたい気持ちの方が大きかったと思います。

私は北海道に生まれ育ち、戦争や原爆に関しては教科書に載っている程度の知識しかなく、私自身の関心も希薄なものでした。また戦争体験を語ってくれる人も身近にいませんでした。

今年6年生の長女が修学旅行で広島へ行った事、学校から今回のバスツアーのお知らせをいただいた事が重なり、参加に至りました。

30年も前に教科書で学んだ戦争、写真やテレビで見たことのある原爆ドーム、原爆の被害。様々な資料を実際に目にし、なんとも言い難い感情が自分の中にフツフツと沸き上がってきました。そしてその感情が冷め切らぬうちに聴いた、ボランティアの方々の朗読。紹介していただいた詩が、とても悲しく、悔しく、胸が苦しくなりました。自分であったなら…自分の子供であったなら…そう思うとやるせない気持ちになりました。

こんなにも悲惨な現実。今なおその被害に苦しむ人々。71年という年月が経った今でも、その苦しみ、悲しみは終わることがないのだと感じました。

戦争を知らない私達、子供達が、この先絶対に同じ悲しみを繰り返さない事、それが原爆被害に遭わ

れた方々への供養であると思います。この悲しい経験を風化させず、語り継いでいく事、それは今を生きる私達の努めであると思います。

この2日間は、大変貴重な経験をさせていただいた2日間となりました。

このツアーから帰り、北海道の実家へ電話をしたところ、父方の祖父母が広島出身であった事を聞きました。父は戦後に北海道で生まれており、私が生まれる前に祖父は他界。祖母も数年前に他界しており、いつまで広島にいたのか、どのような経緯で満州へ渡り、北海道へ移住したのか、もう聞く事ができませんが、不思議な縁を感じます。

いずれまた、広島の地を訪れたいと強く思っています。

このバスツアーが今後も継続されます事を願います。2日間ありがとうございました。

## 親子広島バスツアー

長尾 真滉

私はこのバスツアーに参加するまで、ほとんど原爆に関する知識がありませんでした。しかし、資料館に行ったり、朗読会で朗読を聞いたり、他にも式典出席や、碑をめぐった事など、原爆づくしの2日間を終えて、自分が「核」という悲惨なものを、今まで考えもしなかったこと、今まで平和に過ごしてきたことにとっても罪悪感をいただきました。そしてその「核」が今まだ1万5千発以上も地球上に存在し続けていることに、疑問をおぼえました。ヒロシマの悲劇から71年もの間、世界は何をしていたんだろうと、思いました。

このことは、実際に来て、見てみなければ分かりません。日本人として最低限、この日本で起こった、今では考えることもできないような事実を、知って、受けとめなければならぬと私は思います。

平和を願うこの世界に核はいりません。

## 親子広島バスツアー

長尾 日佐

倍率は高いと思っていたが、まさか6倍もの状態だったとは知りませんでした。

きっかけは娘の就学旅行先が、6年生で転校したことで広島から奈良になってしまったこと。それでも一番は原爆が何かを知らないまま卒業してほしくないという私の思いでした。

感受性の強い娘には朗読の方々のお話が一番強いものを感じてくれたように見えました。

小学校までが素直にまっすぐ感じてくれるような気がします。また式典で同じ12才の小学6年生が自分の言葉でこども代表で発言していたことにも大きく感化されていました。

この経験を通じ、嘘みたいな本当の日本の過去を、夏が来るたびに私達親の世代と、新しい子供たちの世代がずっと話し合ったり感じていったりできる世界があるように、と願っています。

## 朗読会に参加して

宮田 優月

今回初めて親子広島バスツアーに参加させてもらいました。広島に行くのは2回目だったけど、知らなかったことがたくさんありました。

1日目は、原爆ドームを見て、資料館の中を見学しました。夜は朗読会に参加しました。

2日目は、式典に参列して、あとは自由行動で広島城を見学しました。どれもいい経験になって心に残ったけど、私が一番心に残ったことがあります。それは、「朗読会」です。被爆体験記と原爆詩をたくさん読みました。

その中で、私が特に心に残ったものは、三好妙子さんの被爆体験記と、「弟」という原爆詩です。その時の様子が詳しく書いていて、想像するととても怖くなりました。原爆は怖いとはよく聞くけど、あまり思い浮かびませんでした。でも、今回資料を見ながら話を聞いたりして、とても身近に感じました。こんなことは絶対起きてはいけないと思います。

今年で戦後71年ですが、これからも今回聞いた話を忘れず、1日1日を後悔のないように大切に生きていこうと思います。

## ひばく体験記ろう読会を聞いて

宮田 月

ぼくは広島にきたのは初めてでした。

原爆くドームに原しばくだんがおちたんじゃなくて島外科の上空600m上の場所でぼくはつしたなんて初めてしりました。600mも上でぼくはつしたのにすごいひがいにあったことがわかります。とてもせん争のおそろしさが伝わってきます。せん争にあっていなくても考えただけでもみぶるいがします。

ひばく体験記ろう読会で弟という詩が一番心に残っています。

ぼくは、せん争のときにうまれてこなくてよかったと思います。また広島に学校でいくときがあるので、今回の体験を次にいかしていきたいです。し料館にもしいったら、このことを思いながら見ていきたいと思います。

## 親子広島バスツアーに参加して

宮田 優花

今回、初めて「親子広島バスツアー」があるということを知って、中学2年生の娘と小学4年生の息子と一緒に参加しました。

日々生活している中で、戦争について考える機会は少なく、テレビなどで見てもよく理解できていないので、実際に見て、聞いて学べるのは子供たちにとっても私にもいい事だと思いました。

広島に到着してすぐに広島記念公園に向かいました。間近で見る原爆ドームに胸が苦しくなりました。

初めて知ったのですが、原爆は原爆ドームに落とされたのではなく、島外科という病院だという事。しかも、地上に落とされたのではなく上空 600m で炸裂し、半径 2km を破壊して広島の人口の約 4 割の方の命を一瞬にして奪った事。

資料館で見たものは、悲惨で恐ろしいものでした。

その日の夜に、ボランティアの方たちの被爆体験記朗読会がありました。資料を見ずに、目をつぶって体験記をきくと、71 年前の 8 月 6 日悪魔が広島にやってきた様子が私の頭の中に広がり、信じられない恐ろしい情景に息が苦しくなり、涙がとまらなくなりました。

よしちゃんが やけどで ねていて とまが たべたいというので お母ちゃんが  
かい出しに いている間に よしこちゃんは 死んでいた いもばっかしたべさせて  
ころしちゃったねと お母ちゃんは ないた わたしも ないた みんなも ないた

この無題という詩をよんで、子供たちにこんな思いはさせたくないと思いました。たくさんの人を不幸にする戦争は、二度としてはいけません。広島に原子爆弾が落とされた事を忘れてはいけません。

今、この平和がこれからもずっと続くように、次世代へ伝えていきたいと思います。

とても貴重な経験をさせていただき、ありがとうございました。



原爆の子の像前にて

## 広島ツアー 感想

山口 真成

ぼくは、戦争について本で読んだことはあったけれど、広島県へ行くことも実際の原爆ドームを見る事も、今回が初めての体験でした。

爆心地は原爆ドームに直撃ではなく、広島の島外科・内科病院に落とされているのに、原爆ドームも壊れていたり、金属でできた扉が紙のように簡単に曲がっているのを見て、原子爆弾の威力を知りました。爆心地 2km の範囲から助かっても、放射線をあびてしまったりして死んでしまうのがとてもかわいそうでした。

少しでも戦争について知ることが出来て良かったです。ありがとうございました。

## 平和を祈り続ける広島市のチカラ

山口 孝行

青い空の下、西宮市の平和事業「親子広島バスツアー」に参加させて頂きました。

40年以上も生きてきて、実は広島県を訪れること自体が初めて！当然、自国の歴史としては、71年前の8月6日に何が起きたのか！？を知っているつもりでしたが、目で耳で肌で感じるのとは大きな違いがありました。

その時、その瞬間の人々の苦しみ。さらには、その後も続く苦難の数々を目の当たりにすることで、当たり前を感じる「平和であること」の大切さ。また、この事実を伝え続ける重要性を理解することができたように思います。

また、平和記念公園内外やその他の広島市内、そして平和記念式典でのボランティアの方々の方々の多さには圧倒されました。日本だけに及ばず世界各国からの多くの参列者をもてなすホスピタリティの高さ！広島市民が中心となりこれまでも、これからも平和を願い続け、伝え続ける姿に深く感動しました。

広島市民、長崎市民と同じように、自身を含めた西宮市民も平和を訴え続ける市民でありたいと思います。本当にありがとうございました。



平和記念公園内での様子



## 親子広島バスツアーに参加して

山崎 菜子

私は、母と2人で参加しました。修学旅行では広島にいなかったということもあって、初めて参加しました。

資料館では、〈破壊された広島市街地の模型〉が心に残りました。その模型を見るだけで、原子爆弾の強さ、おそろしさを知りました。また、建物がほとんどなくなっているのがよく分かりました。それと〈禎子さんの折り鶴〉も心に残りました。12歳で白血病と診断され、健康の回復を祈って鶴を折り続けました。千羽以上折ったそうです。禎子さんの『生きたい』という思いが伝わってきました。禎子さんは12歳で亡くなりました。おなかの中にいた子だって亡くなっています。今の、あたりまえの毎日。それが一瞬にしてなくなってしまう。大切なものも、家族も。絶対忘れてはいけないとあらためて思いました。次は、私たちが、伝えていこうと思います。

## 親子バスツアーに参加して

山崎 恵

広島出身である私にとって8月6日は特別な日です。

広島では学校で原爆の悲惨さについて繰り返し学びます。小学生の頃、原爆資料館で見た皮膚の垂れ下がった人形の衝撃は忘れることができません。昔は8月6日は登校日で8時15分には皆で黙祷をしていました。合図のサイレンが鳴るとその1分間は街がシンと静まり返り余計に蝉の音が耳に響いていた記憶があります。

結婚して県外に出て初めて迎えた8月6日に私はとてもショックを受けました。全国でも当たり前のようにテレビで平和式典の様子が中継され黙祷をするものだと思っていたからです。

広島出身の者として我が子には原爆のこと、平和についてちゃんと知って考えてほしいと思います。長女と次女は原爆資料館に行ったことがあります。三女はなく、帰省のときにもなかなか時間が取れず、修学旅行でも行き先が違ったため、一度連れて行きたいと思っていたところにこのツアーを知りいい機会だと思い応募しました。

親になって見る原爆資料館は、子どもの頃に感じた恐怖とはまた違った思いも加わりながら見学しました。もしもこの焼けただれた子が、被爆後白血病で亡くなったこの子がもし我が子であったなら…と思うと胸が締めつけられました。

翌日の式典への参加も初めてのことでしたので貴重な機会でした。実際に原爆が落とされたその地その瞬間に立ち、もしもそれが我が事であったならと想像して黙祷しました。

平和公園内のたくさんの碑を原爆被害者の会の水野さんに案内していただき、広島に住んでいてもこんなにじっくりと平和公園を巡ることはなかったのでとても有意義な時間でした。

娘も資料館の展示物を興味深く見て回り、言葉は多くありませんでしたが、旅の最後に「来て良かった」と言っていました。

西宮市がこの親子バスツアーを20年以上前から続けられていると聞き驚きましたがとてもありがたいと思います。

被爆者の方が高齢で減っていく中、日本も核武装すべきだという政治家もいる今、1人でも多くの方に平和公園に足を運び核兵器とはどういうものかを知ってもらいたいです。

そしてできれば西宮市の全小学校が広島への修学旅行になり、子どもたちに知る機会を与えてほしいと願います。

この2日間貴重な経験をさせていただき感謝いたします。本当にありがとうございました。

## 親子広島バスツアーに参加して

脇田 大輝

8月5日、6日と親子広島バスツアーに参加し、原爆ドームなどを見てまわり、今はこんなに平和な日本なのに昔の戦争で焼け野原になっていたなんて信じられませんでした。原爆ドームも原子爆弾が落とされる前は、物産展などもやっていたにぎやかだったと思うのに、そんな幸せをほんの数秒でつぶしてしまう原子爆弾はとてもおそろしい物だと思いました。他にも平和記念資料館の中には当時の事が再現されていてこんなに苦しんで死んでいったなんて、とても考えられませんでした。

原爆はたくさんの人の命をうばい、子供も大人も男も女も関係なく殺していきました。兵隊と兵隊どうしの戦いでも、あんな物は使ってはいけないけど、なんの関係もない人も巻きこむのはひどすぎると思いました。中には原爆で死んで、遺体もどこかへいってしまい、遺族の人達に何も返ってこない人も多くいたと聞きました。遺品だけしか返ってこなくて弔ってあげられない人もたくさんいたと思います。

1発の原子爆弾で何万人もの死者を出すような物はこの世に存在してはいけないと思います。そう簡単にはなくならないと思うけれど、日本は原爆を受けたたった1つの国でその爆弾1つでどれほど死者が出るかを知っているのに、日本が中心となって核兵器をなくしていかないとはいけません。

もうあんな事を繰り返さないために、みんなが一丸となって取りくんでいかなければいけません。自分が生きている時に核兵器があるのは怖いし、いつ自分の国に落とされるかわからないし、またあのような事が起きてしまうのだけは絶対にしてはいけないので、この世界から核兵器がなくなるといけないという事をこの親子広島バスツアーに行ったことでわかるようになりました。

## 広島バスツアーで

脇田 陽菜

わたしは、広島に原子ばくだんが落とされたことは少ししか知りませんでした。でも今回のバスツアーで、原子ばくだんのおそろしさ、そして原子ばくだんが落とされたことで、広島の人たちにどんなひがいを受けさせたか、よくバスツアーを通して分かりました。

まず1日目、原ばくドームと原ばくの子のぞうに千羽づるをほうのうしました。原ばくドームをじっくり見ると、いたる所にひびが入っていて、今にもこわれそうでした。たった1ばつの原子ばくだんでこんなふうになたものがボロボロになるということで、とてもおどろいた。さらにばく心地のしま病院に行き、ここの上空から原子ばくだんが落ちてきたんだなと思いました。きっと当時は、しま病院もボロボロだったと思う。

2 日目は、平和記念式典に出ました。場所をさがしてすわり、まわりを見るといろんなせだいの人、いろんな国の人がいるのが分かりました

やがて 8 時 15 分になり、その場にいた全員、約 5 万人がもくとうをささげました。そして市長の平和せん言を聞き、一せいにはとが放たれ、それからいろいろな話を聞き、あらためて感じたのは、「平和が一番いい」です。

全体を通して、感じたり、思ったりしたことは、原ばくドームではたった 1 発の原子ばくだんでたてものがボロボロになること。しま病院もきつとボロボロになったこと。などを、今よりも、もっともつと先の未来にわたしたちが伝えて、その聞いた人からも伝えて…と、原子ばくだんのおそろしさ、もう二度とこんなことが起こらないようにすること、それをこれからも伝えていって、これからも平和が続いてほしいです。

## 親子広島バスツアーに参加して

脇田 ひとみ

今回、私自身の小学校の修学旅行で訪れた広島でわが子たちに何かを感じて欲しいと思い、息子（中 2）と娘（小 4）と参加させていただきました。

初日は原爆ドームと平和記念資料館を見学しました。平和記念公園内にはとてもたくさんの慰霊碑や供養塔があり驚きました。どれも未曾有の出来事を嘆き悲しみ、二度とあつてはならないと伝えていました。多くが学生たちが犠牲になった事をしてあり、母として胸が苦しくなりました。

夜の被爆体験朗読会では、この広島で詠むことに意味があり、今を生きている私たちが詠むことに意味があるのだと思いました。娘も私も声に出して読んでみてより情景が思い浮かばれて執筆者の絶望感、自身の無力感をひしひしと感じました。広島の人たちは今もまだ苦しみ続けているんだ、何年たつても終わることはないんだと教えてもらいました。

次の日、8 月 6 日は朝からとても暑い日でした。71 年前の空も青く暑い日だったのだろうかと思いをはせて平和記念式典に参列するため、再び平和記念公園に向かいました。バスを降りるとボーイスカウトの少年少女たちが献花のための花を配り、たくさんのボランティアの人々、町全体が式典のために準備し、この日を忘れない日にしよう、世界に伝えようとしているのを肌で感じました。

世界のリーダー達がなぜ世の中には 1 万 5 千を超える核兵器が必要なのか、思想の違いだけで戦争を起こさないといけないのか。広島から訴え続けていくべきだと思いました。

短い 2 日間でしたが、一生心に残る旅行になりました。今世界で起こっている戦争やテロについてより深く考えるきっかけとなり、学ぶことができました。今後も多くの西宮市民の方々に体験していただきたいと思います。

貴重な体験をありがとうございました。



## バスツアーの参加

渡邊 聡太

ぼくは、去年お兄ちゃんに広島のことを少し教えてもらってもっとくわしく知りたいと思っておうぼしました。

せんそうとげんぱくはとてもこわい、おそろしく、いっばんじんをまきこむものでした。ポツダム宣言が言われ 71 年、亡くなった人の友達、家族たちの悲しみがあり、ほうしゃせんでの苦しみがいっぱいあったと思いました。

これからは、せんそう、げんぱくでの悲しみ苦しみがないように平和な日本を作っていくといいと思いました。

## 親子広島バスツアーに参加して

渡邊 佳代

昨年度、PTA 活動をしている際、校長が「広島への修学旅行」の変更を考えているというお話があり、次男のために応募させていただきました。

長男（中 1）は昨年、修学旅行で広島に行ってきました。私自身、記憶に残る年齢で広島に行った事がなく、この親子広島バスツアーで初めて知ることがたくさんありました。

原爆ドーム、島外科、平和記念資料館は、長男の修学旅行の説明会で名前は知っている程度でしたが、実際に見学して戦争の悲惨さを知ると共に、平和への思いを強く感じました。

被爆体験記朗読会では、ボランティアの方の朗読だけでなく、参加者による朗読体験がありました。次男も実際に声を出して読むことで、原爆詩に込められた思いを感じることができたのではないかと思います。

6 日の平和記念式典では、式典の前に献花する事が出来ました。会場にはたくさんの方の参列者がいて、特に外国人の方の参列者もおられたのが印象的でした。世界中の人が平和を願うことが一番だと思いました。

帰って長男と広島について話すことも出来て、家族で 71 年前の戦争について考えることが大切だと思いました。

最後になりましたが、今回のツアーでお世話になった皆様、いろいろとありがとうございました。これからも、このツアーが続くことを願っています。



原爆ドーム前にて

## 平成 28 年度 親子広島バスツアー行程表

8 月 5 日 (金)		8 月 6 日 (土)	
8:30	西宮市役所前の「平和非核都市宣言碑」の前で出発式	6:00	朝食
9:00	出発 (バス) ↓ ↓ 高速道路 ↓	6:40	出発 (バス)
14:30	広島到着 (原爆ドーム前) 折り鶴奉納、平和記念資料館、 平和記念公園など見学	7:00	平和記念公園に到着
17:00	平和記念資料館 出発	8:00	平和記念式典
17:30	宿舎 (広島ダイヤモンドホテル に到着)	9:00	式典終了 出発までは自由行動 【原爆被害者の会の方に平和 記念公園内の碑の説明等をして いただきました (希望者の み)】
18:00	夕食	13:00	集合・出発 (バス) ↓ ↓ 高速道路 ↓
19:15	出前朗読会 (地元ボランティア) 原爆被害の概要(ビデオ上映)、 被爆体験記・原爆詩の朗読 など	18:30	頃 西宮市役所前に到着
20:30	終了		



平和非核都市 西宮